

熊本県立八代東高等学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
校訓「向学 敬愛 礼節」のもと、商業及び体育の専門的な教育活動を通して、将来への志を育み、地域社会の発展に貢献できる資質と能力を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 確かな学力・学びに向かう力の涵養 (2) 人権尊重の精神・豊かな心の醸成 (3) 基本的な生活習慣・規範意識の確立

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教職員一丸となった指導	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議及び職員研修等が機能し、教職員の共通理解が図られているか 教育目標や現状を踏まえ、教職員が同一方針で指導しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会議や各分掌の会議を定期的開催し、情報の共有化を図る 教職員の共通理解の下、同一方針で指導を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 会議を年間行事予定と週時間割に組み込む 教育目標や学校の課題に応じた研修の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールロイヤー研修や臨時の職員会議を実施するなど学校の課題や指導方針の共有を図る取組みを行うことができた。
	保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> P T A 総会・学年保護者会等へ保護者が積極的に参加しているか アンケート等により保護者の意見を汲み取っているか 	<ul style="list-style-type: none"> 4年ぶりのP T A 総会であるが、7割の出席率を目指す 東高マーケットの食バザーや馳走会への保護者参加 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 本部役員を中心にその他の保護者に対しても文書による呼びかけ等を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> P T A 総会は、出席率が42%と低い参加率であった。 東高マーケットでは、P T A バザー(カレーの販売)を行い、約50人の参加があった。 2学期終業式に行われた馳走会も保護者の協力を得て実施することができた。
	地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事、ボランティア活動に生徒、教職員が積極的に参加しているか 生徒が地域と交流するような機会を作ったか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動への参加を全校生徒に呼びかける・地域行事(八代妙見祭等)への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 校外のボランティア活動への生徒の積極的な参加を促す 同窓会やP T A 等関係機関との連携を図り、参加者の呼びかけを行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内の清掃活動にのべ47人、募金、花火大会、河川の清掃、本町アーケードの清掃活動等の校外のボランティアにのべ23人が参加した。 妙見祭の同窓会花馬奉納に生徒、職員も参加し、地域交流をすることができた。

	開かれた学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事へ保護者や地域の方々が多く参加しているか ・体験入学への参加中学生が多いか ・高校説明会や公開授業及び地域への広報活動は効果的に行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加者の増加 ・体験入学へ参加する入学生の増加 ・学校案内やプレゼンテーションの工夫改善 ・ホームページの活用と学校紹介のチラシ等の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等に関する案内文の早期送付 ・学校紹介パンフレット、プレゼンテーションに生徒の意見を盛り込む ・ホームページの積極的な更新 ・学校安心メール等の活用及び学校紹介のポスター・チラシの定期的な発行と配布 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に実施した体験入学では、144人の中学生が参加した。アンケートから99%の中学生から好評との結果を受けた。 ・早々に学校パンフレットを作成し、中学校説明会で配布することができた。 ・ホームページや「すぐる」を活用し、生徒・保護者・地域等への情報発信・情報提供を行うことができた。
	業務改善、働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に取り組んでいるか ・働き方改革に取り組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校務分掌で業務量を1割削減する ・一人当たりの月平均時間外勤務を30時間以内に抑える 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選、業務の見直し（スクラップ&ビルド） ・ICT機器を活用し、教育の情報化及びペーパーレス化の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会のICT化を図ることができ、今後の会議等のペーパーレス化の道筋をつけることができた。 ・時間外勤務時間は、下期においては前年度より減少傾向が続いている。 ・職員朝会の週3回実施、長期休業中に定時退勤を徹底することができた。
学力向上	授業の工夫、改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的事項の定着を図っているか ・思考力、判断力、表現力を育む授業が実践されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業、公開授業週間の実施 ・各教科によるアクティブラーニングの視点やICTの活用を考慮した研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による相互評価 ・シラバス・評価規準の提示 ・指導案、参観票の簡略化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用については、各教科で試行錯誤し、授業で様々な工夫が見られた。ICT支援員の活用も十分にできた。 ・生徒にとってわかりやすいシラバスについて検討を重ねた。次年度から新様式に移行できるよう準備を進める。 ・校内研究授業を公開授業と併せて実施した。お互いの授業を参観することにより、学び合うことができた。
	教師の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導力及び専門性の向上に努めているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外で行われる研修会等への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修成果の実践 ・校内における復講の実施と情報共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修会への参加が積極的に行われた。新しい学習評価については、各教科で復講が行われ情報共有ができた。
	個に応じたきめ細かな指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに応じた効果的な支援を行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者へのプラスアルファの支援 ・個別指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前の学習課外の実施 ・各教科による個別指導時間の確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年部が中心となり成績不振者への個別の支援が行われた。考査前だけでなく、平日頃からの小さな支援の積み重ねが求められる。
キャリア教育（進路指導）	指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒の進路意識を高揚させ、明確な目標を持たせることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査において具体的な希望を述べる生徒が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の出張講義の充実 ・外部ガイダンスへの参加推奨（保護者周知も実施） ・個別の希望に応じたガイダンス実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査で具体的な志望を記入した生徒が全体の55%から72%に増加した。 ・上級学校出張講義では講座数を8から16講座へ増やすことができた。 ・「やつしろお仕事体験フェア」など外部ガイダンスを行事計画に組み込み、1・2年生生徒が参加できた。

	勤労観と職業観の涵養と進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい勤労観や職業観は醸成できたか 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次において、生徒が自らの価値基準に基づいて進路を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> 会社見学、インターンシップの実施 外部講師等の進路講話の実施 キャリアパスポート等を用いた自己理解促進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生全員が校内選考に申し込むにあたり、あらかじめ志望理由書を自身で作成することができた。 100%の参加率であった応募前の職場見学等、各取組の後は面談を通じて振り返りを行い、自己理解を深めて進路選択につなげた。 面談時間の確保が課題である。
	進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力養成から応用力養成まで、段階的な指導を行うことができたか 一人ひとりの生徒への指導は適切であったか 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率が100%になる 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が参加した模擬面接指導 進学希望者向けの個別指導 適切な外部機関との連携（公務員専門学校等） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生77人中75人の進路が決定し、2人が未決定（応募完了、受験待ち）である。 初回受験不調者は6人であったが、適切な事後対応によって次回受験での合格を実現した。 来年度、より多くの生徒が第一志望を貫徹できるように2年生との面談を計画している。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 端正な服装の着こなしができているか 正規の制服を着用しているか 遅刻が減少したか 場に応じた挨拶を交わすことができるか 	<ul style="list-style-type: none"> 整容指導基準の共通理解のもと、指導の統一を図る 年間遅刻平均数を昨年度より10%減を目指す 職員室や各準備室に入室するときに挨拶ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間のコミュニケーションを図り、同じ基準で指導ができようにする。 学年と連携して生徒指導部でも遅刻指導を実施する 登校指導にて教師側から積極的な挨拶を心掛ける 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校則見直しで、生徒のクールビズを採用しているが、冬服時にリボンをしらない生徒や紛失する生徒が増えた。 いくつかの校則見直しを行ったが大きな混乱はなかった。 昨年度の遅刻指導生徒は昨年と同等の数字であった。次年度も学年と連携して遅刻生徒の減少に努めたい。 朝の登校時の挨拶や集会での挨拶の声が小さいと感じるので日々の学校生活であいさつをする習慣を身に付けさせる必要がある。
	問題行動の未然防止と対応	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数が減少したか 特別指導生徒の反省は深まったか 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導件数の減少に努める 特別指導解除後、落ち着いた学校生活ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 各部・学年、その他関係機関と情報交換を密に行い、事前指導と組織的な対応の実践する 全職員で指導にあたる 	C	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数は、今年度7件14名であり昨年度より増加した。次年度は問題行動の未然防止の取組が必要である。 年度により問題行動事案も増減するので、事後指導も迅速に当たり、生徒の心の成長を図りたい。
	SNS等問題の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> SNSのトラブル件数が減少したか 	<ul style="list-style-type: none"> SNS諸問題での特別指導を減少させる 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にSNS等資料を生徒に配付し防止に努める 学年と連携し、調査指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SNS等での特別指導はなかったが、SNS教育の実施は今後も必要である。正しい知識と教育が必要だと感じる。

	交通ルールの遵守とマナーの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の整備ができてきているか ・自転車保険に加入しているか ・ツーロックが徹底できているか ・交通事故が減少したか ・ヘルメットを着用しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車整備安全点検の徹底 ・自転車保険加入率100% ・ツーロック施錠率100% ・交通事故件数「0」を目指す ・ヘルメット着用し登下校する生徒を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の確実な安全点検と自転車保険加入状況の確認を徹底 ・学期毎のツーロック調査の実施 ・事故対応マニュアルカードの配付 ・交通関係配付物により適切な交通安全指導の強化を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に自転車整備点検を実施した。自転車保険加入率100%を達成できた。 ・予告後ツーロック調査を行ったが、クラスにおいて意識の差があった。交通委員会を中心に継続的な啓発活動を実施していきたい。 ・交通講話を実施することができた。次年度も実施したい。 ・登下校時の交通事故が数件あった。 ・今年度はヘルメット着用者を2名確認することができた。 ・次年度も交通委員会を中心に継続的な交通安全啓発活動を実施していきたい。
	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体性を持って学校行事等に参加したか ・委員会活動に積極的に取り組んだか ・生徒会活動が創意工夫して行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主催の行事等の企画立案、実践を計画的に行う ・生徒会執行部が各委員会と連携し組織的な活動ができる ・昨年度の取り組みの反省点を生かし、創意工夫して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内生活での時間を有効利用し、自主的な生徒会活動の運営を目指す ・月に一度委員会活動日を設ける ・生徒会室前や各学年の廊下等に目安箱を置き、生徒の要望を反映できるように取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会のプログラム作成や、用品の準備、クラスマッチの要項やルール、対戦表などを職員と連携して生徒会で作成することができた。 ・体育大会では生徒の要望を反映した種目を取り入れることができた。クラスマッチを八代市総合体育館で実施し感染対策と新たな種目を取り入れたりして、生徒の笑顔が増える行事になるように改善した。 ・委員会活動の充実を次年度図っていきたい。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会による計画的かつ組織的な人権教育が推進されたか ・様々な人権問題に関する基本的認識を深め、実践的指導力を高めるような研修が行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会の定期的な開催 ・明確な役割分担による各部、各学年との連携 ・互いの教育実践経験、成果や課題等の情報交換 ・部落差別をはじめとする様々な人権問題に関する研修の設定 ・校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を週時間割に組み込む ・必要に応じた各部会、各学年会における協議の依頼と情報共有 ・本校生徒に関する教育実践交流（人権教育レポート研修会等）の実施 ・現地研修会や各種研修会への積極的な参加 ・各研修会の復講 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・3月曜日に推進委員会を開催し、ほぼ計画的に取組を進めることができた。 ・学年ごとに開催した人権教育講演会は学年団と連携してスムーズに実施する事ができた。 ・昨年度実施できなかった学年においても他学年と合同で実施し、生徒の人権意識の向上に繋げることができた。
	すべて	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の根幹に人権 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画に 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の本校生徒に関する実践レポート作成が徹底できず、改善の必要がある。 ・研修会における資料を配布し情報共有を図ったが、参加状況は芳しくなかったため、改善の必要がある。 ・参加した研修資料はICTを活用し情報提供することができたが、提供に留まっているため、実践として生かせるよう学びの場を創造していく必要がある。
	すべて	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の根幹に人権 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画に 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に面談週間を設けて、生徒の実態把握

	の教育活動を通じた取組の強化	教育を据え、生徒一人ひとりを大切にしたい教育が実践されているか	おける各教科の目標設定と教育実践 ・教育相談の充実 ・定期的な生徒理解研修の実施	・各学期における面談週間の設定 ・SCやSSWとの連携 ・生徒情報交換会における生徒の状況把握 ・各学期における生徒理解研修の実施		に努めた。 ・SCのべ31件、SSW4件の生徒、保護者を専門家につなぎ、助言をもらうことができた。 ・隔週で生徒情報交換会を行い、関係職員で生徒の共通理解を図った。
	命を大切にす育む指導	・すべての教育活動において、自己や他者を尊重し、命の大切さについて学ぶ指導できているか	・一人ひとりの存在を尊重し、それぞれがかげがえのない存在であることを、学校全体の指導の中で理解させる ・いじめ問題に教職員・学校が積極的に関わる姿勢を示し、いじめの未然防止と抑止につなげる	・生徒理解研修を年間で3回以上実施する ・人権をたしかめ合う日（毎月11日）に合わせ朝読書を活用し、人権作文を読む。 ・いじめの認知または通報を受けた際に、組織として迅速な対応を行う	B	・生徒理解研修を3回実施し、気になる生徒への対応法を周知した。 ・生徒理解研修を通して、全職員で特別な配慮を要する生徒への理解を深め、適切な言葉かけ、配慮に努めた。 ・いじめ防止の標語や、人権作文の作成を通して、生徒一人一人の人権意識の高揚を図った。 ・いじめ問題について、学年会や生徒情報交換会等で常に生徒の状況を把握して、対応策を協議した。
いじめの防止等	いじめの理解と学校としての対応	・「いじめは絶対にゆるされない」「いじめは卑怯な行為である」との認識を持ち、全教職員がその役割と責任を自覚し、対応できたか	・いじめはどの学校でも、どの子にも起こりうることを常に認識する ・いじめのサイン発見シートの活用 ・生徒・教職員の気づきを収集する	・職員研修をとおして、いじめを許さない・見逃さない人権感覚を身に付ける	B	・研修において、全職員でいじめ防止について確認し、いじめについて関係職員で役割を分担し、組織的に対応することを徹底した。
	いじめの早期発見とその対応	・すべての生徒を対象に、いじめを許さない未然防止につながる教育に取り組んだか	・生徒会や総務部との連携を図り、生徒への啓発活動を行う ・生徒情報交換会において、日頃から生徒の様子を関係職員で共有し、早期の対応を行う	・生徒会による「心のきずなを深める月間」のアピール文を発表 ・いじめに関する「心のアンケート」の実施 ・教育相談部ポストの活用	B	・心のきずなを深める月間では、生徒会長によるいじめ防止のスピーチを行い、いじめのない学校作りを全校生徒へ示すことができた。 ・学期毎に心のアンケートを実施し、生徒の学校生活における悩み等を吸い上げることができた。 ・気になる生徒の投書については、関係職員で対応を行った。
	家庭や地域、関係機関との連携	・関係機関と連携を図り、学校以外の相談窓口について生徒や保護者に周知したか	・教育相談部を中心に学校全体で広報活動に取り組み、担任、学年、SC及びSSW等との連携を図る	・合格者説明会やPTA総会において保護者に対して相談窓口の周知を図る ・様々なチェックシートを配付するなど保護者への情報提供を適宜行う	B	・相談窓口等の情報を文書で保護者へ配付した。 ・担任を通して、保護者へチェックリストの配布、必要に応じてSC面談を働きかけた。

地域連携(コミュニティスクール)	連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学校運営協議会の助言等を学校運営にいかしているか。 防災マニュアルの検討に取り組んだか 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域との協力体制構築、特色ある学校づくりの推進 避難所運営のマニュアル作成及び情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の開催、学校運営についての協議 危機管理マニュアルを作成し、職員に配付 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の昨年度の提言を学校運営に生かそうと取り組んでいる。 新型コロナウイルス5類移行を受け、危機管理マニュアルの見直しを行った。改訂した危機管理マニュアルを職員に配付した。
	防災意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の防災意識の高揚は図れたか 教職員のメンタルヘルス対応はできているか 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育のあり方を検討する カウンセリングマインド等の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の防災関係の研究大会等への参加 スクールカウンセラー等の専門家の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は4年ぶりに「防災避難訓練」を実施することができた。地震等災害発生時における安全確保や火災時の初動動作など、意識の啓発や行動確認など周知徹底を図った。
その他	地域からの信頼	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動が地域から高い評価を得ているか 専門高校として地域のニーズに答えているか 本校を希望し、入学する生徒が多いか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を愛する心(郷土愛)を育む 学校の専門性を地域に還元する 各科8割以上の生徒を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺や緑の回廊の清掃、地域ボランティア活動への積極的な参加 インターンシップや販売実習の充実及び地域行事への参加 丁寧な教育活動の実践、学校説明会や体験入学の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前期(特色)選抜において、出願倍率は学校全体で1.08倍であった。(普通科スポーツコース1.25倍、商業科1.00倍、情報ネットワーク科1.05倍) 東高マーケットを本町アーケードで実施し、約3,500人を集客することができ、地域活性化に貢献することができた。

豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動をととして生徒たちに多様な物の見方や考え方を身に付けさせることができているか 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の充実を図る 朝の読書を充実させる 生徒平均年間貸出冊数が前年度より向上するように取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科のニーズに合わせた図書の購入 全校生徒及び全教職員による一斉読書 進路研究、HR、教科等の教育活動に応じた図書館の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科のニーズに合わせた図書を購入するとともに、外部図書館の活用・連携を行うことができた。 朝の読書の時間は定着しつつあるが、取り組む姿勢については生徒の個人差が大きい。今後は、生徒への個別のアプローチが必要である。 授業等、様々な場面で図書館の活用が見られた。幅広い活用と共に「心の居場所」となる図書館づくりを進めていきたい。
商業の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 販売実習「東高マーケット」の成功に向けて、机上の学習及び様々な体験的学習をととして、望ましい勤労観・職業観を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 商業専門科目の授業および学習評価について工夫改善を行い、更なる言語活動の充実を図る 個別指導の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 東高マーケットでは、マーケットリーダーを中心として、生徒自ら企画・運営に取り組めた。生徒達が自らの役割を理解し、主体的に活動したことで、勤労観や職業観の育成につなげることができた 生徒間で意識の差もあるので、今後それをどう埋めていくのかが課題である。 本年度も開催場所を本町アーケードにしたことで、地域活性に貢献できた。
	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に向けての指導を充実させ進路実現に活かすことができているか 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定試験の合格率を昨年度より向上させるとともに、個に応じた指導を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の進路を意識させることで検定試験に対する意識を向上させ、学習活動を活発に行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学習の成果を試すことと学力を確立するため、各種検定試験に挑戦させた。授業を中心に課外や学習会、個別指導を実施することで、資格取得を意欲的に取り組む生徒が増えた。 日商簿記やITパスポートなど上級資格取得を生徒とともに目指した。商業科として連携した指導体制を確立し、今後も生徒のキャリアアップを目指したい。
スポーツコースの専門性の向上とスポーツリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> 競技力は向上しているか 地域のスポーツ振興に貢献する人材が育成されているか 進路の目標が達成されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 九州大会や全国大会への出場及び上位入賞 スポーツマンとしてのさわやかな挨拶・返事や清楚な身だしなみ 学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 重点種目を中心とした指導の強化 部活動の枠を越えた生徒指導の推進 授業に臨む態度等の醸成 	B	<ul style="list-style-type: none"> バドミントン部や陸上競技部においてインターハイ、九州新人大会に出場するなど競技力を向上できた。また、本校の卒業生から国内外でトップクラスのアスリートを輩出している。また、地域のスポーツ振興に貢献できる人材を育成できた。 3年生の進路は、全員達成された。 普通科体育コースの募集定員を満たしておらず、今後定員を増やせるように創意工夫をしていきたい。